



環境フォーラムさかた(電子)環境かわら版

令和3年12月1日号 酒田市環境衛生課



今年も!

お宅の灯油に注意しましょう!

今年も、11月1日の酒田市広報に「油流出事故防止」の記事を掲載しました。
この時期、暖房の使用が多く、灯油の不注意も増えてきます。
今年も火災のない、温かい冬を過ごしましょう。

昨年も、ホームタンクからの給油の際、現場を離れて給油中だったことを忘れるなど、大きなホームタンクがカラになる被害が複数起きています。

- 保管用の古いタンク類が漏れそうではないですか?
! 特に高齢者宅や住人のいない住宅のタンク類は、定期的を確認しましょう。
- ホームタンクからの給油作業は油断大敵
! 外は寒いですが「タンクから離れる時は締める」を忘れずに。
- 周辺に燃えやすいものは?
! 灯油をこぼしたり、家財がストーブに触れたりすると危険です。
- 家庭内だけでなく地域でも話題に
! 自治会では注意や周知を行ってくださっていますが、皆さんで、もう一声を。

年末年始は「おいしい食べきり」

の季節です♡

「食品ロス削減」という言葉をご存じですか?

「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」では、コロナでの規制が緩み、皆さんが解放された年末年始を待ち焦がれているこの時期、外食時の「おいしい食べきり」全国共同キャンペーンを実施します。

山形県や酒田市もこれに参加しており、「おいしく🍴」「たのしく🍴」
だけでなく「残さない🍴」宴会・外食をお勧めしています。

期間 令和3年12月～令和4年1月

第2次酒田市環境基本計画 基本目標3 自然を守り共に生きる ～豊かな自然の保護と活用～



Ⅱ 『ざっこしめ』をする子供たち
夢芽生えふるさと愛を育む活動Ⅱ

生涯学習コーディネーター
今井 努

「ざっこしめ」とは庄内地方の方言で、酒田方言データベースでは、ざっこ・雑魚(ざこ)がなまったものしめ・捕えるの意味と、紹介されている。いわゆる川での魚とりのことである。

〈夢を育む舞台〉

『ざっこしめ』の活動場所は、酒田市の中心より南東部に位置し、上流の農業排水路(小牧排水路)から市街地を経由し、酒田港湾に注ぐ延長4キロの最上川水系1級河川小牧川である。当時は、山形県で最も汚れた川であり、誰一人として近寄らず、時には悪臭が漂い、地域住

民より見捨てられてしまった川だった。そんな時、官民協働の活動が始まり、何とかきれいで人が集える川にしようと立ち上がった。その活動は、草刈りや河川のごみ拾い、やがて沿線小学校の総合学習の活動の場所となり、今では子供たちを中心に地域に愛される川となったのである。

〈子供たちのしぐさ〉

「わーい」と子供たちの歓声が響く。胴長をはいて川の中に恐る恐る入る子供たち。魚を追い込んで採取する「追い込み」漁法で、網にかかった魚を見て、恐る恐る触る子供たち。こんな様子が毎回みられる。そして、「これ俺が捕ったんだぜ」とバケツの中の魚を指さして、誇らしげに私にアピールする。その中で子供たちの人気者が、モクズガニ。毎回かならずとっていいほど「学校に持って行って自分たちで飼育するんだ」と。この光景を見て、なぜかどの子供たちも独占欲が強いのだという印象を感じた。

〈不思議な光景とそのわけ〉

そうそう、近年特に気になる子供たちの行動。私にはどうしても不可解で理解できない子供たちの様子を見かける。それは、網にかかった魚を捕まえるとき、なぜかしら親指と人差し指の2本の指で

魚の尾をつかもうとする光景。手ですくうようにと教え、やつと魚をバケツに入れることになる。十人が十人同じような行動をするのだ。

私の知人によると、その不可解な行動は、魚が怖いので、そんな仕草をするのだらうと。考えてみれば、近年川で活動する子供たちは消えてしまった。想像するに、生きた魚を自分の手で触るなんて、生まれて初めてなのだらう。そんなときの子供たちの言葉が、「冷たい・ヌルヌルする」という声……。思うに子供たちは、こういう自然体験が少なくなっただからだ。この行動は、未来を託す子供たちにとって危機的状況と感じる。

〈未来を育む子供たちに託すものとは〉

総合学習の時間を使い、貴重な自然体験を通して、命の尊さ・自分たちの住む故郷にはまだまだこんな素晴らしい自然があることを感じてもらうことが出来たら。そして、これからもずっとこの自然環境が持続するために、自分たちが今何をすべきか、何ができるのかを、この活動を通して気づいてもらえれば、私として非常にうれしい。そして、生き物と触れ合うことにより心豊かな人間となることを願うものである。そんな思いで、「故郷を思う心の授業」を今年も行っている。